

温泉建設やめて、その予算を福祉・くらし・教育に

日本共産党、市長に陳情書を 手渡す



「陳情書」を市長に手渡し、要望を述べる松平日本共産党あきる野市委員長（右から四人目）と日本共産党の市議員と参加者

くらしの実態、市長は
もっと知ってほしい

陳情者、市長に切々と訴える

あきる野市の日本共産党市議会(六名)と市議団は、七月二十七日、田中あきる野市長に会い、市民から寄せられた「温泉建設をやめて、その予算をくらし応援に生かすことを求める陳情書」を手渡し、市民が願っている要望を切々と訴えました。

アンケートの回答は

87%が「温泉建設はムダ」

日本共産党の松平あきる野市委員長は、一、八八六筆の陳情書を市長に渡し、次のような説明をしました。

参加者の声

二度、ものを言ったが返答は聞かれなかった。「あきる野市の温泉建設は郵政民営化と同じだ。どちらも国民(市民)は望んでいない」と言ったが市長はどう聞いたのだろうか。(雨間・増田忠治)

この回答五二七人の特徴は、いま市が進めようとしている二四億九千万円を使つての温泉建設に八七%が「温泉建設はやめて、その予算をくらし、福祉教育にこそ使う必要がある」という回答だったことです。

さらにアンケートの内訳を見ると「市政で力を入れて欲しいことは何か」と言う設問にたいして一位が介護、

二位が医療、三位が環境、四位が子育て・教育で、この一位から四位までの回答が全体の四九%を占め、観光は一五%に過ぎません。

私たちは一概に観光事業を否定するものではありません。しかし、いまの国政の中で市民のくらしは大変厳しくなっています。市民は、市

市が

市政アンケートをやつては?

市委員長の説明の後、参加者から市長に対し、質問や要望が出されました。「五日市には宿泊施設があり、かなり大きな風呂もあるが経営は大変と聞いています。それなのに温泉建設をすすめるばますます経営が困難になると経営者は言っている。これでは地域の活性化にはならないのでは

こそ、市民のくらしを応援して欲しいと思っています。このような時に、市が二四億九千万円という膨大な予算を使つて進めようとする温泉建設は、市民の願いとは大きくかけ離れています。この陳情署名はこの市民の願いが込められています。ぜひ検討をしてください。

くらしが

大変なことを分かって欲しい

「本当の意味での街の活性化を考えるのなら市民のくらしを安定させることの方が先ではないのか。介護保険を利用して人々がどんなに大変な生活を強いられるか、知って欲しい。

医師にもかかれぬ、買物に行くのに歩いていけない。市長は最初から緊張しているようでした。私たちの質議や要望について「執行部に伝える」と言つて即答を避けました。これだけ市政の中心問題になつて

「娘が産んだ。阿伎留病院へバスで行つたが帰るバスがない。温泉なんかには予算を使うのはとんでもない。『るのバス』の充実に予算をまわして欲しい。」

「保育園は市立が五園しかない。そして公立保育園の内容が良くない。市は若い子育て世代にぜひ援助をしてもらえないだろうか。」

市長は

もっとしっかりしてほしい

市長は最初から緊張しているようでした。私たちの質議や要望について「執行部に伝える」と言つて即答を避けました。これだけ市政の中心問題になつて

「市長、主体性を持って市政に対処してください」と思っているのは、私たち日本共産党だけだろうか。



「あきる野民報」を 地域の新聞に一新!

今回の市議選で、市民のみなさんが、私たち日本共産党の政策に共感していただき、いまままでにない大きなご支持をいただきました。この機会により開かれた地域新聞として「あきる野民報」の改善をすすめていきたいと決意しています。

あきる野民報の名称も含めてみなさんのご意見をお待ちしています。
<FAX 558-0718 松平まで>

あきる野民報

2005年8月14日/発行
日本共産党あきる野市委員会
発行責任者/松平重幸 電話 558-0718

野良望

イギリスの有名な放送局BBCが最近アンケートを国民からとつたら、近世のすぐれた学者のトップは、他を大きくリードしてあの資本論を書いた、マルクスだという結果が出たと報道された。

▼資本主義の始まりから衰退までを生涯をかけ研究し、その過程を科学的に明らかにし、社会を変えるその原動力になるのが私たち労働者、勤労者であることを解明し、人類は、必ず社会主義に到達すると道筋を示し働く私たちを激励した。▼いま日本では、大企業の露骨な利潤追求の施策のため、少くない青年が正規の社員になれず、フリーターなどという名称で低賃金で雇われ、正規の社員もサービスマン残業の強制にさらされている。このことはマルクスが一二〇年前に指摘していた。苦難な道ではあるが日本国民は間違ひなく、これを乗り越えることを確信する。(松)

かんばれ 苦いお父さん、お母さん

さんへ

家のお父さんはいつも12時間以上働いています。だから、お父さんに会えるのは、お父さんが会社からイオみやみくら来た時、夜中に私が目をさました時、朝学校に行く前のちょっとの時間しか会えません。それに、土、日は、一年間で休みがほんの少しあります。家のお父さんを早く帰らして下さい。お母さん、お父さん、お母さんトヨタ

知人宅で小学生の女の子が書いた手紙を見せてもらいました。宛先が誰にしたらいいのか分らないそうです。(五日市・H氏提供)



被爆60周年
いま、核兵器の廃絶を
広島・長崎へ平和大行進あきる野市を行く

2005年原水爆禁止国民平和進行(北海道→東京コース)は7月22日五日市に、23日は日の出町役場を出発、あきる野市役所から福生公園までを元気に行進しました。

あきる野市役所前で午前10時45分、瀬沼あきる野原水協代表の司会で行進集会を開き、市を代表して木内総務部長が激励のあいさつ、今年の原水禁世界大会広島と長崎に参加する高橋敦子さん、中村薫さん、安部潤子さん、矢澤則子さんが紹介されました。

宣伝カーで訴えながら、東京土建や原水協、新婦

人、教組などの旗がはためきます。隊列は40人ほどになりました(のべ参加者80人余)。

「頑張ってね」と声をかけるおばあちゃんや、車の中で手を挙げてこたえる人、マンションの高い窓から手を振る子どもなど、行進者を元気づけます。



「つくる会」の教科書 不採択を決める

あきる野市教育委員会

傍聴者60名は溢れ、図書室で

戦争を賛美する教科書問題が大きな関心事となっています。あきる野市でも子どもと教科書ネット「あきる野」という組織もつくられました。

そうして学習をしながら街頭にも出て、このような教科書が教育の場で使われ

たら大変なことになると積極的に運動を展開してきました。

市の教育委員会も諸出版社の教科書を中学校に巡回してきました。また、六月から七月八日まで教科書センターに展示し、市民の感想を求めてきました。一七八名の市民が意見を書き込み、行列ができる程でした。

扶桑社の教科書は「乱暴すぎる」

七月二七日教育委員会で教科書問題が審議されました。

正規の傍聴席は十名のみのため、詰め掛けた傍聴者六十名の多くは別室で

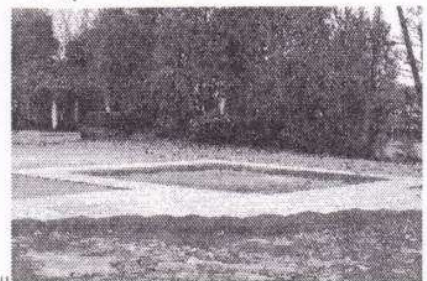
ピーカーに耳をかたむけました。

教育委員会は三時間におよぶ審議で、教科書を選定しました。問題の扶桑社の教科書は採用されませんでした。委員長「扶桑社の教科書は結論を急いで乱暴すぎる」と言う言葉もありました。

別室の傍聴席では運動が起きたと、喜びの拍手が起きました。

歴史探訪 第1回 前田耕地遺跡(野辺)

市内野辺に前田公園ができる前この地が「前田耕地遺跡」として注目されたのは今から約30年前、日本住宅公団が付近を住宅地として開発することから始まります。この地を都教育委員会が遺物散布地として認めため、公団も高層住宅から低層住宅への変更を承認埋蔵文化調査が進められました。



縄文人が前田耕地に登場する縄文章創期では、サケを捕獲して食料とするための二千点の石槍が発見されています。以降、縄文前期の住宅跡の発見や中期での竪穴式住居跡、後期では敷石住宅と呼ばれる竪穴住居の床に石を敷いた住居跡が発見されています。

弥生時代から古墳時代になるにつれて、住民の水田利用が進むにつれ、二宮遺跡への移動もあつて減少、中世で再び居住するなど、再三の繰り返しをしてきたようです。

現在、前田公園の一角に縄文前期と弥生後期の住居跡が復元され、公園入口にも遺跡の概略の説明版が設置されています。

草花・木寄秀治

俳句

俳句、川柳、短歌など、みなさんからの投稿をお待ちしています。

空井戸の底へ大声風涼し
噴水の飛沫に逃げて被被女
夏休握る拳に子の秘密



(香)